

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・ 当地への人の訪れが増え始めている気配がある。北海道新幹線、又は前年の8月にオープンした多目的施設の効果とみられる。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・ 顧客回帰による来客数増もあり、秋物の定価品、夏物のセール品ともに好調に推移している。ただ、会員カード所有者による購買が堅調な一方で、観光客を含む一般フリー客による購買が苦戦している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ 8月の販売量は前年から9%ダウンしているが、7月と同様に3か月前との比較では微増傾向にあるなど、ここ3～4か月、販売量が右肩上がりになってきている。ただ、前年との比較では、売上が11%のダウン、来客数が9%のダウンとなっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ 台風が連続して北海道に上陸し、雨の日が続いていることで顧客の動きが落ち込んでいる。その一方で、災害工事従事者や雨で遠方のスーパーに行けない買物客による需要が増加しており、売上自体は回復傾向にある。根本的な回復ではないが、景気はやや良くなっている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・ 重衣料の販売量が落ちてきているものの、先物のオーダースーツが前年比150%と大きく売上を伸ばしている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ 今年は気温が高いことで夏季のイベントなどに例年にならぬほどの人出があったため、まずまず景気が良かった。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ 利用客数や客が一度に使う金額などが増えている。会社としても3か月前と比較して10%程度の増益が見込まれる。まだまだ地元の景気回復が進んでいないこと、秋冬になると観光客の減少が懸念されることなどから、今後もこうした動きを維持できるかは分からないが、ここ数か月との違いが感じられる。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・ 8月28日時点の利用客数は前年比112%となっている。天候の悪かった7月を除けば、5月以降の利用客数はほぼ前年比110%と伸びを続けていることから、景気はやや良くなっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ 前月に引き続き、特に個人客が増加している。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 客の反応がこれまでと変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ 8月は少年サッカーやテニスの全国規模の大会があったこともあり、中旬までは宿泊、交通、お土産、最寄品などで売上を伸ばしたが、下旬になると、夏祭り最終日の雨でほとんどのイベントが中止になったこと、台風が連続で上陸した影響で地元客の出控えがみられたことなどから、期待どおりに売上が伸びず、8月全体としては幾分低調であった。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・ 一般客による消費は例年並みで推移している。その一方で、外国人観光客はオンシーズンの単価の高い時期を避けたのか、前年と比べて激減している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ 3か月前と比べると売上はかなり良かった。ただ、例年、8月はお盆需要や季節商材である飲料水の販売量増加といった季節要因があるため、そうした季節要因を考慮すると、景気にあまり変化はみられない。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・ 北海道新幹線の開業後初めての夏休みを迎えることで、効果が生じることを期待していたが、定性的にはあまり変化がみられなかった。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・ 来客数は減少傾向にあるものの、客単価が上昇傾向になってきている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・ 8月はお盆、新学期とマーケット需要の生じる月であるが、前年と比較して来客数も客単価も落ち込んでいる。特にお盆商戦では手土産の買上単価が前年割れとなるなど、客の節約志向がうかがえた。

スーパー（企画担当）	来客数の動き	・既存店の来客数が依然として前年を下回っている。一方、輸入食品原材料の高騰などにより、多くの加工食品で値上げが実行されていることで客単価は上昇している。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・山の日の制定により休日が増加したこともあり、今年のお盆商戦の売上は前年と比べてまずまずの結果であったが、お盆前後の売上が例年を下回って推移したことから、トータルの売上はやや低調であった。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月は比較的気温が高かったことから、7月と比較するとアイスや飲料水、果物などの季節商材の売上が好調に推移している。しかし、競合他社との価格差の影響が、ビールの売上が大きく減少している。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・各店舗で売上が増えてきているが、来店客や周辺的环境に変化がみられないため、気温の上昇に伴うものとみられる。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・夏祭りなどで各企業による浴衣の売上は良かったが、4日間の日程で開催した展示会の初日が台風に見舞われたことで催事の売上が前年を30%下回った。また、8月中旬以降、台風が3回も上陸し交通機関の運休が相次ぐなど、当地では台風による被害が各方面でみられた。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・来客数が増えてこない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・8月も天候不順の影響がみられ、夏物家電セールの販売量が前年を下回った。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量がなかなか上向いてこない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・会社全体での販売量は前年並みとなっており、当店の販売量も悪くはない。ただ、今年は新型車効果がある割には今一つであり、前年よりも景気が悪い可能性もある。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・夏季休暇もあり、販売台数が伸び悩んだ。前年と比較しても横ばい状態である。
自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・売上は前年並みであったが、来客数は前年の90%にとどまった。冬タイヤ販売を前年よりも1か月早く行っていることで、売上を先取りしている面がみられる。
その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・年金支給月の割には客の出費が少ない。予想外の暑さが影響しているのか、客の外出が明らかに少なくなっている。
その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定していることで、販売量が安定して推移している。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・立て続けに台風が北海道に上陸したことで農作物に被害が生じており、今後は便乗値上げも含めて、野菜の価格が上昇することが懸念されるため、景気が良くなるという実感を一般消費者が持てなくなっている。
高級レストラン（スタッフ）	競争相手の様子	・観光客の来店はあるものの、人手不足から部屋の一部をクローズして対応しているため、客の待ち時間が長くなっており、途中で帰る客がみられる。また、営業時間の分割を始めたことで客を制限することにもなり、回転率が悪くなっている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・台風が上陸した日は売上が大きく下がったが、8月全体でみると常連客が順調に来店してくれたこともあり、売上はどうか前年並みとなった。ただ、顧客の客単価がダウンしており、個人消費の低迷が感じられる。一方、春先から取り組んできた宣伝告知に一区切り付いたこともあり、新規客の動きは落ち着いてきた。そのほか、台風の影響としては、取引先の農場に予約していた農産物が収穫できなくなったことで食材の産地がメニュー表記と変わってしまい、客対応に苦慮した。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・8月は北海道観光のピークシーズンであり、人の動きの活発な月であるが、今年は台風の上陸が相次ぎ、航空機の欠航が多くみられたため、前年をやや下回っている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・8月に入り客の動きが少し鈍くなっている。例年であれば、秋冬の受注が最初のピークを迎える時期であるが、今年はピーク感がない。

	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・受注状況を見ると、ほぼ前年と同じようなペースで推移しているため、景気は変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・8月は雨の日が多かったため、前年よりもタクシー1台当たりの売上が増えているが、乗務員不足でタクシーの稼働率が落ちており、会社全体の売上は前年を若干下回った。
	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の利用は例年並みであったが、7～8月とイベント関係での利用が多かったため、売上は前年と比較してやや良かった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・地元の祭りが行われたことに加えて、観光客の入込も好調なことから、8月は活況を呈した。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・前年と比べると、販売量は変わらないものの、客単価が落ちていることで売上が伸び悩んでいる。ぜい沢をしない、ぜい沢はできないという客の様子が見られる。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・従業員の努力により販売量を維持できている状況である。来客数の前年比が低下しており、今年に入ってから常に前年を下回っている状況にある。3か月前と比較しても、来客数、販売量ともに大きな伸びはみられない。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店周期が固定化してきており、良くもならないが、悪くもならない状況が続いている。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・8月の売上は、前年実績、前月実績と比べて良いのだが、景気が良くなっているとまではいえない。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・観光客の入込増により、当地の飲食、ホテル、旅館などは引き続き好調に推移している。
	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・分譲マンションのモデルルームへの来客数はリオオリンピックの影響で減少すると見込んでいたが、実際には影響はみられなかった。お盆前後の来客数も普段の週末とあまり変わらなかった。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・時計などの高額商材の販売量が減っている。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・外国人観光客の数は減っていないが、ここ数か月、中国人を中心に客単価の低下や買い控えが多くみられ、前年と比べて3割程度売上が減少している。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・8月上旬は暑い日が続いたことで夏物衣料に動きがみられたものの、中旬以降、台風が立て続けに3回も上陸するなど、過去にない状況がみられたことが影響し、来客数が非常に減少した。カテゴリ別にみると、紳士物、カジュアル、雑貨、企画、靴、ハンドバックの売行きが厳しい月であった。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・外国人観光客による売上が前年比70%を下回ったほか、地元客の来客数が前年比95%とここ数か月で最も悪かった。また、例年よりも暑い日が続いたことで、秋物の定価品の売行きも超スローペースで推移している。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・当店で衣料品がやや堅調に推移したものの、そのほかの商材が苦戦するなど、商材によって販売量にむらが生じている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・お盆商戦は景気に左右されずに安定した業績を残せたが、お盆商戦後の客の購買意欲が低下している。価格に敏感になり、必要な物しか購買していない。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・曜日並びが影響したのが、お盆期間の売上が前年と比べて2%ほど低下している。平均買上点数や商品単価が微増していることで客単価は前年から1%上昇しているものの、来客数が減少したことが影響している。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・前年にみられたプレミアム付商品券特需がない分、お盆商戦の客の財布のひもが固かった。
	コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・近所のコンビニが人手不足で半月ほどクローズしており、その期間中の売上は前月よりも5%アップしたが、8月全体の売上は前年比97%であった。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車、中古車とも一向に受注量が上向いてこない。他地区と比べて当地区の景気の悪さが際立っている。新車は受注残がある分、売上につながっているが、この先は大変だ。
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・アジア圏からの募集型ツアーが低調である。国内の団体旅行も集客が弱く、個人型旅行商品の売行きも横ばいであり、景気はやや悪くなっている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の予約件数が前年の7割にとどまるなど、数字が悪すぎる。

		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して夏休みの駆け込み需要が伸びておらず、前年比で来客数、販売額ともが落ちている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・競合他社では大口の客への販売量が増えているものの、自社の販売量が全体的に低迷している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・8月前半は気温の低さが影響し、8月後半は台風が影響しており、景気はやや悪くなっている。
	悪くなっている	タクシー運転手	販売量の動き	前年と比べて売上の減少幅が拡大している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前は販売量が前年比でプラス7%であったが、8月は前年比でプラス13%と更に伸びている。
		建設業（従業員）	競争相手の様子	・建築工事の最盛期を迎えて、景気はやや良くなっている。ただ、絶対量がそれほど増加しているわけではないにもかかわらず、労務者が不足して新規受注が困難な状況にあることがネックである。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事は農業関係の受注が伸びており、民間建築工事も分譲マンション、商業施設が順調に推移している。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・案件規模が大型化しており、価格も高額化している。一方、件数は微増で推移している。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・補正予算が執行され始めたことに加えて、災害復旧案件も動き出してきた。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・8月は稼働日数が少なかったことで、予想どおり売上が減少しているが、景気自体はやや良い状況にある。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、売上に特段変化がみられない状況にある。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市圏を中心に高額商材の売行きに陰りが出てきている。異常気象の影響もマイナスに作用している。
		金融業（従業員）	それ以外	・公共工事予算の早期執行により建設業は上向きである。外国人観光客の爆買いが沈静化してきていることにより百貨店は苦戦しているが、ドラッグストアは依然好調に推移している。観光関連も好調を維持している。ただ、3か月前との比較では大きな変化はみられない。
		司法書士	取引先の様子	・土地取引並びに建物建築が低水準で推移している。大きな変化がないのは、高齢化や過疎化などの地域的な問題が影響しているためとみられる。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・設備投資に対する客先の意向や今後の予定などから、景気は3か月前と変わらない。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年よりもやや上向いた状況が続いている。
	やや悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・8月は元々期待の薄い月であり、全般的に伸びに欠けている。また、台風の影響で船の便数が減ったことで取扱量が落ち込んでいる。
		司法書士	取引先の様子	・例年と比べて不動産売買や建物新築の件数が減少している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引の低迷が続いていることから、景気は依然として低迷している。消費拡大のための施策がみえてこないことも影響している。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	取引先の様子	・受注先で案件のキャンセルが複数出てきている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告件数が前年比104.7%と今年初めて前年を上回った。特に運輸・運送関連が前年比145.5%と大きく伸びており、全体をけん引した。売上構成比1位の派遣が前年比で5%の減少、前年2位の医療が前年比で40%の減少となったが、旅行・観光、理美容・健康など、構成比8位以下の業種が軒並み前年を大きく上回った。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年比0.1%増と2か月連続で前年を上回り、月間有効求人数が前年比1.8%増と12か月連続で前年を上回った。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣ニーズは堅調である。特に事務、販売、販売促進などのニーズが高い。企業において社員の採用が困難となっていることで、社員の代用としてのニーズも多数みられることから、企業業績は若干上向いている。また、ホテルでのベッドメイクなどの軽作業の依頼も引き続き多いことから、観光業界の景気も底堅い。その反面、例年であれば、バーゲンなどでこの時期に高いニーズのあるアパレル販売の派遣が奮わなかったことから、個人消費が低迷していることが懸念される。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・求人倍率が高く、売手市場ではあるものの、スキルのある人材ほど、希望職種に就けないミスマッチが潜在している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の新規求人数が10か月連続して増加している。しかしながら、増加幅がここ2か月と比べて小幅にとどまっている。今後の新規求人数の増加見通しや新たな話題もみられない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人数は増えているが、正社員求人に限れば頭打ちとなっている。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・個人消費関連業界の求人件数が減っているが、運送業、建設業、食品製造業などは堅調である。また、アルバイト、パートよりも転職者の動きが活発である。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・市場そのものが縮小している。人口流出、高齢化率の上昇などの影響で景況感も良くない。また、求職側はより良い条件のところを求める一方で、求人側はより安く雇用したいと考えるなど、求職側と求人側の間のミスマッチもみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が77か月連続で前年を上回るなかで、新規求人数が3か月連続、月間有効求人数が5か月連続で減少した。特に新規求人では正社員以外の求人が前年を上回ったため、正社員求人の減少幅が拡大している。
悪くなっている	-	-	-